

今月のトピックス

- ・新年度に向けて情報収集!...《新年度市産業関連補助金の概要》
- ・この1年を振り返って...《鹿角ブランドアップ戦略レポート》
- ・今後の展開も楽しみです...《鹿角のヒト・モノ情報》
- ・ネズミーランド...《室長のコラム》

さあ!
新年度が
スタート!

～平成24年度鹿角市産業部関連補助金の概要～

平成24年度鹿角市産業部(商工振興課・観光交流課・農林課・産業連携推進室)の補助金制度の中から主要なものを抜粋して紹介します。掲載する制度以外にもありますのでお気軽に産業連携推進室 電話30-0264へお問い合わせください。



米粉焼きドーナツでも活用

No.	名 称	制度概要	対象者	補助対象経費	補助率	補助上限等	その他	受付時期
1	農商工観連携ブランドアップ事業費補助金	複数の事業者がその連携のもとに実施する、本市の資源を利用した新商品やサービス等の研究開発事業・販路促進事業を支援します。	他事業者との連携のもと新商品開発等を行うとする方	研究開発費/販路促進費	1/2	150万円	効果が著しいと認められる事業は2,000万円を上限補助額とします。	随時
2	地域資源・経営ブランドアップ事業費補助金	本市の資源を利用した新商品やサービス等の研究開発事業・販路促進事業を支援します。	新商品開発等を行うとする方	研究開発費/販路促進費(事業拠点費/免許等取得費)	1/2	50万円(150万円)	中小企業新事業活動促進法に基づく「経営革新計画」の承認事業は、()を適用します。	随時
3	そばの里産地確立交付金	畑耕作放棄地と不作付地でそばを栽培し、及び販売される農業者を支援します。	畑耕作放棄地又は不作付地にそばを作付する方	①作付営農支援(基本単価) ②農地再生支援加算(初年度) ③収量・品質向上対策加算(4年目)	定額	①1.5万円/10a ②1.5万円/10a ③0.5万円/10a	4年目に施肥を行いそばの作付けをする場合は(①+③)となります。/そばを作付けしない場合は、不作付け地となるため対象外。/施肥を行い、一時的にそば以外の作付けを行う場合は③のみ。	随時
4	元気な農業者・ステッパアップ事業費補助金	農産物の加工等による付加価値生産や直接販売を行うなどの取組み(6次産業化)を行う農業者を支援します。	認定農業者、農業者団体等	①直売施設等整備経費 ②加工施設整備経費 ③その他体験施設等整備経費	1/2	100万円	事業の採択にあたっては審査が行われます。	随時
5	鹿角市果実酒・どぶろく製造整備補助金	「果実酒・どぶろくの地かづの創造特区」に基づき、地域の特産物を原料とした酒類を製造される方を支援します。	自ら生産した原料から酒類を製造し、販売しようとする方	設備等の経費	1/2	40万円		随時
6	商店街店舗リニューアル支援事業補助金	商店街の店舗を営む方が実施する、専門家の診断に基づいた店舗のリニューアル整備を支援します。	市内の商店街で店舗を営む方	改装費/備品購入費/宣伝広告費	1/2	50万円		随時
7	空き店舗利活用推進事業補助金(常設)	空き店舗を活用して店舗等を設置される方を支援します。	空き店舗を活用して恒常的な店舗、事業所等を開業しようとする方	改装費 / 備品購入費/宣伝広告費/謝金	1/2	50万円		随時
8	空き店舗利活用推進事業補助金(催事)	空き店舗を利用して賑わい創出につながる催事等を実施する方を支援します。	空き店舗を活用して催事等を実施しようとする方	催事等の実施に要する費用	1/2	30万円		随時

【鹿角ブランドアップ戦略レポート】

コミュニティFM プロジェクト

2月17日(金)、市総務課との協議が行われました。この日は行政情報番組の素案等の提案と緊急時における放送体制の素案の説明等、広報と防災の観点から協議が図られ、運営組織の立ち上げ後、詳細について協議を深めていくことで合意しました。

今年度は開局準備チームの立ち上げから番組編成、運営体制や設備等の方針、計画の素案固めと基礎的な部分について進められましたが、来年度はより具体的な計画に基づいた渉外活動、市民等への周知活動を行いながら、免許申請に係る様々な手続きが進められます。

桃 花 プロジェクト

桃花プロジェクトメンバーは、2月29日(水)米粉プロジェクトで開催した、安藤竜二氏のブランドに関する講演会に参加し、ブランド構築のための基礎的知識を更に深めました。

また、講演では「商品やサービスを通じて誰にどんな想いを届けたいのか?」「どうやってその想いを伝えるのか?」など、ブランド構築の具体的な手法等も再確認しました。

桃花プロジェクトにおいても、より一層、追求すべき視点として、認識を共有することができました。

鹿角ブランドアップ戦略の中で策定メンバーから提案された3つのプロジェクト。その取り組みを毎月レポートします!

プラス 平成23年度
総集編

米 粉 プロジェクト

2月29日(水)、3月1日(木)の2日間にわたり「米・米粉加工品ブランドアップ事業」(以下、事業)による勉強会が開催されました。勉強会では、昨年11月に開催した「かづの産業見合市2011」で講演した(株)DDR代表取締役 安藤 竜二さんを講師に迎え、地域ブランドとは何か、ブランディングとは何かなど、基礎的な部分を再度確認し合うとともに、事業におけるブランディングの在り方、方向性、手法等について知識や認識を深めました。勉強会には、今回の事業の参加予定の方々などをはじめ、29日の講演には、桃花プロジェクトのメンバーも参加するなど、多くの方々と認識を共有することが出来ました。

今回の勉強会の中で安藤さんからは、自らの経験を基にしたブランドの定義(ブランドとは消費者との約束である)や仲間が互いを深く知り合う事で更なる広がりや新たな出会いが生み出されること、商品の価値やストーリー(地域の歴史

や背景・原材料の特徴などの整理等も必要)を伝え適正な価格で販売していくことなどの重要性について具体的な事例を交えながらアドバイスがあったほか、課題などについても提起されました。(安藤さんからは、今後も事業の中でアドバイス等を受けていくこととなっています。)

今回のアドバイスや課題提起等も含めて、米・米加工品のブランド化を目指して、メンバーがより一層協力しながら活動を展開していくこととしています。



2/29 講演会の様子

MADE in 鹿角 モノ情報

かづの北限の桃 缶詰



4号缶は完売する人気

生食の美味しさを、1年中楽しめたら...その想いから誕生した「かづの北限の桃缶詰」。

販売者は果樹農家でJAかづの桃生産部会長の務める佐藤一さん。想いをカタチにした製造者は地元鹿角の(有)岩船屋。鹿角市ブランドアップ事業費補助金を活用して今

回初めて挑戦したものです。

商品は一般的な4号缶のものと、業務用(2次加工)向けの一斗缶の2種類。4号缶は約250缶、一斗缶は約20缶製造され、4号缶は十和田市民市場や大湯温泉郷の宿、道の駅かづの等で1缶350円から販売され、1ヶ月も経過しないうちに完売する人気ぶり。一方一斗缶は市内の学校給食の食材として鹿角の子どもたちにも紹介されました。

今回の製造に使われた桃は全部で約350kg。大変デリケートで傷みやすい桃の加工は収穫から加工までの時間や品種の違い、硬さや糖度の違い等、留意する点が多くありますが、缶詰製造のノウハウを持つ岩船屋では桃の到着後、数日以内で一気に約350kgの桃を加工し、レモン果汁と砂糖、水だけを使って佐藤さんの想いでもある「生食に近い味と食感」に近づけるよう製造しました。

今回の第1弾を経て、味や食感、ラベルのデザインや販売戦略等を磨き上げながら引き続き今年の製造にも取り組み、特産品化を目指す予定です。

桃の缶詰に関するお問い合わせ 電話35-5191 (佐藤さん)

PEOPLE of 鹿角 ヒト情報

どぶろくづくりに挑戦中の

柳沢 幸喜さん
柳沢 清さん

鹿角市がどぶろく製造特区を取得した平成22年から2年。平成24年1月鹿角で第1号のどぶろくが生まれました。この第1号の製造に取り組まれた柳沢幸喜さんと父の清さん。



2月6日市長に完成の報告

お二人とも互いに認める“さげ呑み”。お父様の清さんは以前からどぶろく製造に興味を持ち、新聞等から他地域の取り組みや手法等の情報を集めていたところ、鹿角市が特区を取得した記事を目にします。

説明会や視察等にも参加し担当者等に質問していく中で、申請には様々な条件をクリアしていなければならない事を知り、息子の幸喜さんは「それじゃ無理か」と思う事もあったそうですが、県や市の担当者が丁寧な情報収集、確認を行った結果、条件をクリアできる事が判明。そこから一步一步製造への許可申請手続きが始まりました。

様々な手続きを進めていく中で、やはり本業が多忙を極める時期のスケジュール調整が一番大変だった事かな、と清さんは振り返ります。そうした日々を経て一番最初のどぶろくが完成した時、嬉しさもひとしおだったのでは、と尋ねると、「不安だった」という答え。自分が思い描く味になっているのだろうか、と不安が大きかったとのこと。今現在もより良い製品づくりを試行錯誤しながら挑戦している中で常に不安はあると話します。

酵母や乳酸、麴等の材料の配合はもちろんの事、米、水、空気等でも違った味になるとどぶろく。ここまで出来ればいい、というものではない、常にもっと良いもの、と思うからずっと挑戦が続くのだろうな、と蕎麦屋を営む幸喜さんも話しており、姿勢は清さんと同じです。

製造にあたっては県醸造試験場の担当者がよく足を運んで指導してくれた、とのこと。米どころ酒どころの秋田県ならではの研究機関の存在は、お二人にも大きかったようです。こうした専門家の指導を仰ぎながら、どぶろくを「良い子に育てたい」と挑戦を続ける親子の姿勢。スタートラインに立った鹿角のどぶろくの今後が楽しみになると同時に、鹿角産食材を使った料理との組み合わせ等にも胸が高鳴ります。

メルマガでいち早く情報をGET!!

プラットフォーム通信「かづのRenk」メルマガ版、はじめました!

当室では昨年7月から毎月発行している「かづのRenk」でお伝えし切れない情報や、いち早くお届けしたい展示会や商談会、セミナー、イベント等の各種参加募集情報、鹿角のちょっとした話題等を2月からメルマガジンでお送りしています。

昨年11月に開催した「かづの産業見合市」にご出展いただいた事業者の方で、メールアドレスをご登録いただいた方々を中心にお送りし

ています。配信を希望される方は、下記メールアドレスまで「メルマガ配信希望」と件名にご記入のうえ、所属、役職、お名前、連絡先電話番号を本文にご記入いただき、送信してください。

情報は届くものではなく、集めるもの!ぜひこのメルマガからも情報をGETしてチャンスや閃きを手にしましょう!

配信希望のメールはこちらまでお願いいたします。

→renk@city.kazuno.lg.jp



400字のつぶやき

~コラム~

ディズニーランドに行きた〜!毎年春が近づくと、まるで病魔に取り憑かれたようにそう思う。いつも子どもをダシにするが、見かけによらずで恥ずかしいけれど、本当は自分が一番行きたいのである。

行きたい理由はたくさんあるが、自分が本当に行きたい理由は、実は、あのキャスト(従業員)達が放つ仕事に対する本物の輝きに触れたいからなのである。そこには、清掃、ウエイター、案内係など、普通の会社やイベント会場にもあるような同じことをしているだけなのに、だ。

ウォルト・ディズニーがこよなく信頼した、そうじの神様と称えられた氏曰く、「いいかい?僕はね、子供がポップコーンを落としても、躊躇なく拾って食べられるくらい、床を綺麗にしてほしいんだ」と。夢の世界を支えるものや、やはり最後は「ヒト」である。

鹿角盆地を囲む山々に登り、見渡すと、鹿角は本当に人が住んでいる場所は狭いと感じる。この地を、一人一人が自分の好きな舞台と考え、それぞれの仕事にも誇りをもって暮らすことが出来れば、そこには自然とそんなお金をかけなくても、このたくさんの資源を生かし、誰もが来なくなるような、憧れの「鹿角」を築けるように思えて仕方がない。

「さあ、みんなで」ゲストが寝る暇もないくらい楽しい「夢の...寝ず見いーランド」を目指そう!(ブレードル)

【発行元】

発行 鹿角市産業連携推進室

電話 0186-30-0264

FAX 0186-30-1515

メール renk@city.kazuno.lg.jp

Twitter@KazunoRenk

Facebookページ 鹿角の【ヒト・モノ・ワザ】

